

広報 しんじょう

9
2004

SHINJO PUBLIC RELATIONS No.561

ISO14001

14年7月認証取得



新庄まつり山車パレード

新庄まつり250年.....2
まちづくり会議.....8
さわやか運動.....10
第40回 新庄市芸術祭.....12
江戸だより／いきいき新庄人.....13
しんじょう見聞録.....14
9月のお知らせ.....16
豊かな心をはぐくむ.....18



新庄市ホームページ

<http://www.city.shinjo.yamagata.jp>



いよいよ来年

新庄まつりは 二百五十年



今年のまつり山車



神輿渡御行列(明治31年/北本町)



明治時代の天満宮の祭り(明治31年/北本町)



幾多の苦難を乗り越えて

戸沢氏が初代藩主政盛から十一代正実まで約二百五十年にわたり領内を治めた城下町・新庄市。

今から二百五十年前の宝暦五年(二七五五)、領内は冷害による大凶作に見舞われ、人口が激減するほどの餓死者がいました。翌年、時の藩主五代正誼は、打ちひしがれる領民を勇気づけ活気づけるとともに、五穀豊穡を祈願するため、城内天満宮の祭典「新祭」を領内あげて行われました。

「多くの侍に警護され新庄城から出発した天満宮の神輿行列と、町人たちがそろえた飾りもの行列に、集まった多くの領民は手を合わせて拝見し、久しく絶えていた笛太鼓の音に心躍らせ顔色を和らげた」と宝暦の飢饉の様子を記した『豊年瑞相談』は伝えていきます。

このようにして始められた天満宮の祭典は、明治維新の激動の時代にあつて明治元年は休止されたものの、明治二、三年ころには復活したと思われまふ。旧藩主の住まいすら再建されていなかった明治三年当時、正実公も祭りを見物したとの記録があり、戊辰戦争により中断した祭りの復活を、領民あ

江戸時代の大飢饉から始められた新庄まつり。いつの時代もさまざまな思いと願いが込められてきました。まつりを愛し伝統と心意気を伝えていこうとする人たちを追い、活気あるまちづくりへの原点を探ります。

今でも心を揺さぶる 新庄まつりの思い出

新庄藩筆頭江戸家老 庄司永建氏

昔の山車は、車輪がタイヤではなく、鉄(かね)で、その上、メインストリート以外はろくに舗装されていませんでしたから、大きくゆれました。これが良かった。義経は舟の上を本当に飛びそうでしたし、豪傑は今にも化け物に斬りかかるようでした。そして、山車の縁を飾った杉の葉も今はありません。こんなことをいうのは年寄りの愚痴と人はいいます。そんなことはわかっている。でも祭りは楽しく、山車は素晴らしい、カラガイも懐かしい。

毎年冬になると、民話まつりがあるので帰新するのですが、今年は、ふるさと歴史センターの山車のそばで民話語りを聴きました。わたしも、子どものころの思い出を語りながら、遠い日の新庄まつりを懐かしく思い出しました。



山車に囲まれ昔語り(2月28日/歴史センター)



- 巡行山車(安永五年(一七七六))
- ① 風流 神功皇后……………方場丁
 - ② 風流 はやし傘鉾……………南本丁
 - ③ 風流 田原藤太……………金沢町
 - ④ 風流 はやしだし桜中はやし……………馬喰丁
 - ⑤ 風流 子持山姥……………同
 - ⑥ 風流 傘鉾……………南本丁
 - ⑦ 風流 西王母……………清水川丁
 - ⑧ 風流 福は内……………方場町
 - ⑨ 風流 紅葉狩り……………吉川町
 - ⑩ 風流 菊花壇……………北本町
 - ⑪ 風流 孔明……………鍛冶丁茶屋丁
 - ⑫ 風流 はやし狂言猿踊鳥毛槍持……………同
 - ⑬ 風流 菅原実生梅……………遅沢庄右衛門
 - ⑭ 風流 花見西行……………北本町

現存する最古の巡行山車の記録



まつりでにぎわう駅前通り(昭和41年)



市制記念勸業共進会(昭和24年/南本町)



「羽衣」沖の町(昭和21年)

昭和二十五年ころには「新庄まつり」の名称が使われ始め、昭和五十年代には山車の台数も二十台近くとなり、今日まで新庄まつりは続けられてきました。

昭和二十五年ころには「新庄まつり」の名称が使われ始め、昭和五十年代には山車の台数も二十台近くとなり、今日まで新庄まつりは続けられてきました。

前年に稲舟村を編入し新庄市誕生の年となった昭和二十四年は、「市制記念勸業共進会」が五月に開かれ、十六台の山車が巡行。夏の天満宮祭りも同数の山車が巡行し盛大に行われました。

新庄人の心意気を示しました。

日中戦争が勃発した昭和十二年から終戦を迎える昭和二十年まで、すべてが戦争のために動員され人々の生活にも重圧がのしかかり、昭和十七年を除く八年間(神輿渡御は昭和十五年にも行われたので七年間)は、山車(やたい)行列は中止されました。

そして終戦を迎え、翌昭和二十一年、食べるものさえない極度の混乱の中で、山車が不死鳥のようによみがえりました。沖の町が作った「羽衣」たった一台の山車でしたが、祭りの始まりがそうであったように、やっと訪れた平和の空のもと、人々の心に希望の火を灯しました。翌二十二年も、深刻な食糧不足にありながら五台の山車が巡行し、

まつりを



五十年後も語り継がれる 山車を出したい

後藤 学さん
(大正町山車若連)

わたしの町内の山車は、若連の話の中で二、三年前から構想が始め、山車作りの基本となる下絵を、まつりが終わった直後の九月から描き始めます。外での山車作りは、七月中旬から約

一カ月半ですが、今年の「龍」は、二十歳代の若手が五月から作り始めました。毎年、まつり直前の三日間はどうしても徹夜作業になりますね。

子どものころから新庄まつりが大好きで、まつりとともに人生を歩んできた気がします。わたしたちの山車を楽しみにしている人たちに、まつりの大舞台で若連の心意気を観てもらうことに何よりやりがいを感じます。代々、家族同様の深いきずなで結ばれてきた若連の仲間と、一つの大きなことを成し遂げたときの達成感・充実感は何ものにも替えがたいものがあります。

来年、新庄まつり二百五十年の記念の年に山車巡行に参加できることはとても素晴らしいことです。若連の一人ひとりが原点に立ち返って、五十年後の三百年祭のときにも語り継がれるよう悔いの残らない山車を出したい。そして、子どもたちに思いを伝えていきたい。わたしたちの中では、もう二百五十年祭は始まっています。

山車作りはこだわり

丹 啓次さん

(上茶屋町山車若連)

地元の人には、子どものころから皆まつりが大好きで、若連も若者からベテランまで幅広い年代にわたっています。山車の題材を何にするかは、毎晩行われる製作作業後のミーティングの中でいろいろアイデアが出されますが、その年の代表者に一任して、新年会で発表されます。製作は五月から始まりますが、まつりが近づく毎晩午前零時を過ぎるまで、作業とミーティングが続きます。

毎年、入賞を狙っていますが、それ以上に自分たちが納得できるものを作るということを大事にしています。気に入らなければ何度でも作り直し、絶対に妥協しません。色を決めるの

ることもあります。みんなまつりが好きで、のめり込んでいるからこそできるのだと思います。こだわり苦労して作った分、完成したときのうれしさは格別です。

来年は、これまで出してきた題材の中から選ぶか、これまでにない題材にするか、あるいは最上地方の伝説を題材にするか…。今から来年の二百五十年祭に向け、若連の思いと話は尽きません。





新庄まつりでは、各町内の若連が丹精こめて作る山車(やたい)と、近郷の若連が演奏する囃子が一体となって市内を練り歩きます。山車・囃子とも、それぞれの個性や特徴があり、まつりをさらに興味深いものにしていきます。作り演じる送り手と、観る受け手があって成り立つまつり。いろいろな立場からまつりを支える方々に思いをお聞きしました。

いい笛を聴かせたい

佐藤達也さん

(関屋囃子若連)

寄せ笛を担当していますが、寄せ笛には山車の出発前にみんなを寄せ集める、そして演奏の終わりに最後を締めくくるという役目があります。また、三味線と音

を合わせた(糸合わせ)、広く全体を見渡せることから、囃子全体をまとめる指揮者のような存在です。

まつりの笛を吹いて三十年になります。始めたころは音が太鼓に負けて聞こえなかったり、音程がずれるなど、いろいろ苦労がありました。笛は、息の吹き方一つで音程が変わります。特に寄せ笛は一息が長いので、細く長く続くように吹くのがとても難しいのです。そのため、今もランニングで体を鍛え、いつでも音を出せるよう一年中吹くようにしています。

まつり本番の灯入れ式では、寄せ笛と太鼓一人ずつなので、ものすごいプレッシャーを感じますが、失敗を恐れず自信をもって吹きたいと、大事ですね。太鼓と息を合わせ、笛の音に自分でも酔いしれながら、聴きに来てくださる皆さんにいい笛を聴かせたい。そして、来年の二百五十年祭でも、皆さんにいい笛が聴かせられたら、と思います。

支える人々

最高に盛り上がる夏

三原沙織さん

(小泉囃子若連)

小学生のときに地元の小泉若連に入り鉦(かね)を始め、中学生で笛、高校三年生から太鼓を叩いて三年目になります。短大時代も毎年帰省して演奏していました。まつりが近づき囃子の音が聞こえてくると心が躍ります。小泉若連は、最近若い人が増えてきましたが、ベテランの人も若い人も年代に関係なく、みんなまつりを心から楽しんでいるところがとても好きです。

太鼓は、最近、やっどひとりでも何か打てるようになりました。腕の踊らせ方が難しい。音、テンポ、腕の動きなどまだまだです。ベテランの方でも勉強中と言いますので、私ももっとうまくなるよう勉強したいですね。

今年のまつりでは、駅前のアビ



エスなどでも叩かせてもらい緊張しましたが、とてもうれしく、面白味を感じました。わたしにとって、夏は新庄まつりがあるのです。一年で一番盛り上がる時です。

長い新庄まつりの歴史の中でたった十年しか参加していませんが、来年は、歴史あるまつりに参加できることを誇りに、みんな最高に盛り上がります。

まつりを 支える人々



人形に魂を吹き込む

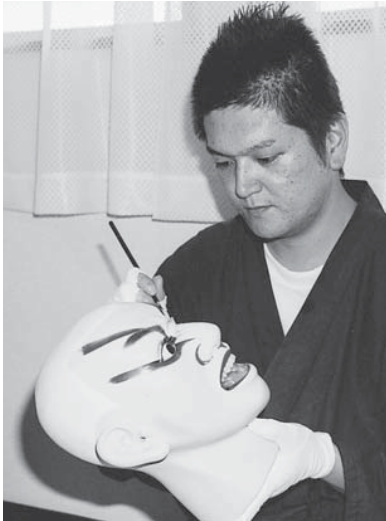
野川知孝さん

(人形師・野川家四代目)

子どものころから父の姿を見ながら仕事を覚えてきました。本格的に作り始めたのは高校二〜三年生ころからで、十年くらいになります。今は、能面も修行中です。

新庄まつりに使う人形のかしらは八十体を超えますが、すべて毎年作り直します。昨年と今年、人形のかしらの製作を少し手伝わせてもらいました。かしらは一つとして同じものではなく、筆の入れ方一つで表情がまるつきり変わるので、表情の作り方にとっても難しさを感じます。また、作る技術は口では教えられないので、見て覚えるしかなく、試行錯誤の連続です。

しかし、このように苦心して完



成した人形がきれいに着飾られ山車に載せられ、皆さんが喜び、まつりが盛り上がってくれると、とてもうれしく思います。人形は、山車の背景と一体となつてはじめて生きてきます。

来年の二百五十年祭でも人形製作を通してまつりに参加し、多くの皆さんに盛り上がってほしいと思います。人形製作は終わりのない世界。今後も精進していきます。

若い仲間と伝統を守る

星川茂樹さん

(仁田山鹿子踊保存会)

今年、地元・仁田山地区の祭りのとき、若手に世代交代して初めて鹿子踊を奉納しました。

これまで、長年、五十代の父の世代が奉納してきました。昨年の国民文化祭がきっかけで世代交代の話になり、若手からやってみたいとの声があがりました。わたしも子どものころから大人たちが踊る姿を見てあこがれのようなものがありましたので、ぜひやってみたいと感じました。

早速、同じ思いを持つ同世代の仲間十人が集まり、昨年の秋から週一〜二回練習を重ねてきました。先輩たちの指導のもと、見よう見



星川さん(左)と保存会の皆さん

まねで覚えなければならぬのでとても大変でしたが、初めて踊りを奉納した後、たくさんの拍手をもらったときは、とても感動しました。

今は間違えないよう踊ることだけで必死ですが、古くから地元で代々受け継がれてきた鹿子踊の伝統を守り、また、温かく見守ってくれる先輩たちの期待に応えるためにも、もつとうまく踊れるよう仲間と頑張っていきます。

みんなで力を合わせて 作るのがまつりの山車

小森安治さん(九十三歳)

(山車連盟顧問)

新庄まつりに関わって七十年になります。昔の山車は、おとぎ話



や物語などが中心でしたが、初代野川陽山の奥さんが歌舞伎に造りが深かったことから歌舞伎ものの山車が増えました。野川さんの製作指導の際、わたしも連れられて各町内を見て歩いたものです。

それ以前の山車は両側から観賞できる構造になっていましたが、歌舞伎の舞台を模して片側から観る造りに変わってきました。歌舞伎ものは、物語を人形の所作(立ち居振る舞い)で表現していますので、場面の意味を知ることにより素晴らしい山車になります。

各町内の若連で連盟を発足して、新庄まつりは時代とともに大きく立派になりました。昔も今も、夜集まって、相談しながらみんなで作るのが新庄まつりの山車です。

平成17年「新庄まつり250年祭」開催

来年は4日間の開催予定。8月24日(水)～27日(土)

宝暦6年(1756)に五穀豊穡の祈願と領民の士気高揚のため始まった新庄まつりは、平成17年に250年という大きな節目の年を迎えます。これを記念して、来年は、新庄まつり250年祭を開催します。

山車人形の図録発行

新庄まつりの山車人形の素晴らしさを広く知ってもらうため、野川陽山氏製作の人形の「かしら」を図録として作成。初代野川陽山氏は能面の製作を本業とし、皇太子殿下御成婚祝いの献上品など数々の素晴らしい作品を生みだし広く海外でも認められています。

記念保存版ガイドブックの作成

250年記念としての内容を盛り込み冊子を作成。新庄まつりの歴史をはじめ、山車、囃子、神輿、宵まつり、本まつり、後まつり、鹿子踊などをわかりやすく解説します。

商人(あきんど)まつり(1カ月前祭)

領民の士気高揚を祈願して始められた新庄まつりの精神を地域活性化につなげるため中心商店街で1カ月前祭を開催します。

新庄まつり山車人形展

新庄まつりは、野川氏の山車人形なしには語れません。表情豊かな「かしら」は芸術品として高く評価されています。これらの代表的な人形やその技法、製作過程を広く紹介するため、特別展を開催します。(7月中旬～9月末／ふるさと歴史センター)

新庄まつり250年祭記念パレード

250年祭が心に深く刻まれるよう、記念パレードを実施します。(8月27日／アビエス、駅前通り)



第1回小若連演奏大会(8月26日／アビエス)



山車を引く小若連の子どもたち(8月24日／アビエス)

まつりへのパワーで
新庄の未来を切り開く

新庄市民ならだれもが愛着をいだく新庄まつり。それは、山車・囃子・引き手・観衆が一体となってエネルギーを爆発させる場であるから。そして、それが市民手づくりの、自分たちのまつりであるということが脈々と受け継がれているからかも知れません。そこには、まつり本来の姿があります。

今から二百五十年前の大飢饉に始まった新庄まつり。右肩上がりの時代から、右肩下がりの時代へと変化する中で、今、新庄市は大きな転換期を迎えています。さまざまな障壁を乗り越え、何度も復活を遂げ、発展してきた新庄まつりの歴史。それは、市民のほかり知れない情熱と努力の積み重ねの歴史でもあります。

来年、新庄まつりは二百五十年という大きな節目を迎えます。この誇るべき財産を胸に、どのようなまつりを行うのか。そして、どのような「わたしたちのまち・新庄」という山車を作り上げ、どのような囃子を奏でていくのか。その答えは、市民のまちを思う熱意にこそあります。

「市政への意見」から

七月から八月にかけて、市内全域で「区長と市長のまちづくり会議」を開催しました。今年も、議題をこれまでの「要望」と「提案」から、「地域の課題」と「市政への意見」に変更。会議に先立ち、市から「行財政改革」「財政再建計画」「市町村合併」「ごみの出し方」について説明しました。市民のみなさんとのパートナーシップにより、よりよいまちづくりに向けて、積極的に取り組んでいきます。

市でも検討し、効果があれば切り替えてはどうでしょうか。
(下北本町)

●新庄まつりは来年二百五十年祭を迎えます。そこで意義あるものとして大賞山車一台を選考し、後世にこのまつりを残していくべきだと思います。選考は小中学生の投票で。
(上茶屋町)

●当市の「地区」は現在二百十五区です。その内容をみると回覧枚数は一〜二十二枚、世帯数は六〜二百七十八世帯と格差があります。数の多少で片付けられるものではありませんが、よく内容を検討すれば区割りの整理統合は可能ではないでしょうか。
(南紙漣町)

●市内を流れる代表的な清流・指首野川の改修が進んでいますが、清流というには名ばかりと言わざるをえません。そのため、水質保全には下水道への切替えの促進や沿川住民による清流を守る活動が必要であると思います。また、河川管理者と十分に調整して流量を確保し、名実ともに「清流・指首野川」を未来に残せるようお願いします。
(松町一、二区)

●市の花としてアジサイを制定してから二十年が経過し、東山あじさいの杜、最上公園あじさい園に約六万株以上の植栽と、造成にかなりの投資をしているものと思います。市の観光イベントとして「あじさいまつり」が定着するよう強く望みます。
(御堀端西)



▲東山公園あじさいの杜

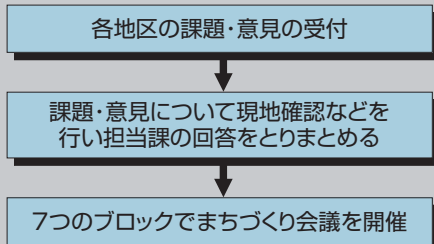
●市町村合併がなくなり、市の将来像を市民と行政が一体となって考えるべきだと思います。市予算の効率的な運用を図ることは大切ですが、住民サービスが低下し、市民が必要とする事業までスリム化や効率化であつては市政への期待は希薄なものになります。元気な新庄、豊かで安全な市民生活を築くために、市民と行政が協働意識を持ち、随所にその力を発揮すべきです。また、市の良さは豊かな自然や人情などですが、さらに市の良さを全国にアピールし、最上郡内の町村と連携し、市の観光を推進してほしい。
(下鉄砲町)

●市民スキー場は「赤字」と聞いています。平日は客がほとんどいないので、土・日曜日だけの営業にしたらいと思います。また、春・夏には山菜などを栽培し収入の確保を考えたらよいのでは。
(萩野二)

※提出された意見は、今後の参考とさせていただきます。

まちづくり会議

区長と市長のまちづくり会議の流れ図



提案・要望の概要

	16年度	15年度
課題／要望	61件	104件
意見／提案	34件	23件
合計	95件	127件

※前年と同じ内容の課題については担当課で直接回答・対応することとしたため、会議の議題としては件数が減少しました。

区長と市長の

課題

「地域の課題」から

●冬期間の通学路確保のため、陸羽西線踏切付近の除排雪の徹底を
(上茶屋町)

○来年度から県は、踏切から北町交差点までの東側区間の歩道設置事業に着手する予定です。なお、除雪については県に要望します。
(建設課)

●県道の供用開始により地区内の交通量が大幅に増加することが予想されます。地区内の交差点に信号機の新設を。
(松町一、二区)

○近くに小・中学校などがあり、子どもたちの安全確保が必要な箇所です。横断歩道・信号機などの交通安全施設について、地区の意向を警察署に要望します。
(環境課)

●地区内の農道の土側溝にU字溝を埋設してほしい。
(梨ノ木)

○農業用排水路の整備は、基本的に受益者が行うことになっていません。国や県の補助事業に該当する

規模ではありませんので、地区の要望により市の補助を検討します。
(農林課)

●歩道にごみステーションが指定されていますので変更してください。
(下鉄砲町)

○ごみステーションの場所は、地区でよく話し合い、できれば道路以外の場所を確保し申請してください。
(環境課)

●災害時の避難地・避難所を指定した防災マップの作成・配布を
(本宮一區)

○居住地と違う場所においても避難所がわかるよう来年度から標識を順次設置します。また、避難所位置のお知らせを全戸配布します。
(環境課)

●萩野中学校の改築を
(萩野地区全区)

○当面、大規模改修はできません。現況は認識していますので生徒の安全を第一に考え、緊急を要する施設管理を優先に行います。

(教育委員会管理課)

●舗装して三十年になり、上下水道工事などの影響で凸凹がありますので全面舗装をお願いします。
(萩野一)

○全面舗装の計画はなく、現段階ではできない状況ですが、穴などの危険箇所については早急に補修します。
(建設課)

●地区内の下水道整備の早期実現を
(福宮)

○下水道当初計画策定時から処理場に隣接する集落として福宮、福田、飛田、升形地区などは公共下水道の計画区域としています。実施にあたっては都市計画用途地域内から順次整備を進めています。
(下水道課)

●防犯灯の設置について
(升形上二)

○指定の要望書の提出をお願いします。設置は、灯具とその設置費用のみであるため、既存の電柱が必要となります。
(環境課)

新庄市の将来に関するアイデア、生活環境の整備に関することなどについて市では随時、受け付けし対応しています。

ご意見・要望については、市役所に設置している「投書箱」や「eメール」などでもできます。なお、記名のありました要望などについては、速やかに文書で回答しています。



まちづくり会議(わくわく新庄)

まちづくりに関する主な補助制度

- 雪に強いまちづくり事業補助金(建設課)
対象/生活道路などの除雪を行うために要する経費、消雪施設の設置、除雪機の購入
- 生活道路整備費補助金(建設課)
対象/舗装、舗装補修、改良に伴う拡幅・隅切切除、排水施設の改良など
- 街路灯設置及び街灯料補助金(環境課)
- リサイクルにこにこ運動奨励金(環境課)
- 子どもの遊び場整備に関する補助金(社会福祉協議会)
対象/修繕、原材料の購入など

市職員の対応について 市民の採点は

77点

7月12日から8月11日までの1ヵ月間、「お客さまの立場に立った親しみある市役所づくり」を目的に、“さわやか運動”を実施しました。今回は、職員の来客対応を市民から採点していただいた「お客さまアンケート」の結果をお知らせします。

100点換算

●お客さまアンケートの設問

1. 職員のあいさつはいかがでしたか？
2. 職員の身だしなみはいかがでしたか？
3. 職員の言葉づかいはいかがでしたか？
4. 職員の説明はわかりやすかったですか？
5. 職員の対応の態度はどうでしたか？
6. 用件が済むまでの時間はどうでしたか？

●採点結果 5点満点中

設 問	お客さまの採点	区長さんの採点
1. あいさつ	3.83	3.41
2. 身だしなみ	3.86	3.44
3. 言葉づかい	3.93	3.41
4. 説明の分かりやすさ	3.88	3.32
5. 対応時の態度	3.88	3.37
6. 用件が済むまでの時間	3.81	3.26
全項目の平均点	3.86	3.37

※市役所や施設へのお客さまのほか、市役所にお出でになる機会の多い区長さんに、日ごろの職員全般の対応について同じ内容でアンケートにお答えいただきました。

◆対応はわかりやすく
迅速に、との声

市役所・市施設を訪れた「お客さま」がつけた点数は、全体平均で5点満点中3.86点。百点に換算すると77点という採点結果でした。

項目別には次のとおりです。

【身だしなみ】「言葉づかい」【態度】
おおむね良

【あいさつ】満足（4～5点）が6項目中最も多い

【わかりやすい説明】満足、不満ともにも多く普通が少ない（職員により差がある）

【所要時間】不満が最も多い

※全般的に【わかりやすい説明】
【所要時間】について不満が多く、
区長の採点でも同様でした。

市役所を訪れる方は、必要な手続きや困りごとの相談などのために貴重な時間を割いて来られます。アンケート結果では、職員に最も求められているのは、わかりやすい説明と迅速な処理です。今後、あいさつなどはもちろん、相手の立場に立った処理・説明能力を高めたいと思います。

全体平均ではある程度評価さ

■さわやか運動のポイント

- ①わかりやすさ(間違いのないテキパキとした説明)
- ②親しみやすさ(窓口や電話での親しみある適切な対応)
- ③あいさつ(きちんとしたあいさつ・返事)

■取り組みの内容

- ①接遇の基本を書いた「ハンドブック」を全職員へ配付
- ②職員の対応についてお客さまから評価していただく「お客さまアンケート」を実施
- ③運動啓発ポスターの掲示
- ④運動内容とアンケート結果の公表

れているものの、最低点数の1点をつけた方が42人、6項目延べで137件ありました。

これは、一ヵ月間で、42人の方が不満を感じながら帰ったということであり、その方の気持ちを引きと受け止めて改善していく必要があります。

市民による採点は、県内自治体で実施したケースはなく、結果について比較はできませんが、新庄市に転入した方から厳しい意見もいただきました。市外から転入してきた方の意見も聴いて改善していきます。

お気づきの点がありましたらいつでもご意見をお寄せください。

◎総務課行政改革推進室 ☎内線215・218 / eメール soumu@city.shinjo.yamagata.jp



財政再建に向けて全職員研修(8月18日~30日)

お客さまアンケートの概要

- 実施職場／保育所・児童センター(館)・学校を除く職場
- 協力依頼／対応した職員がお客さまに趣旨を説明し依頼
- 採点方法／当日の職員の対応6項目について
[5点(満足)~3点(普通)~1点(不満足)]の5段階で採点
- 回答者数 691人(性別・年代不明を含む)

	10~20代	30~40代	50~60代	70代以上
男	34	76	215	18
女	56	122	95	11
計	90	198	310	29

◆対応についての意見

たくさんさんの苦言・アドバイスをいただきました

- ▲ 私たち市民にとって、市役所は不慣れなところで不安がある。笑顔や話し方など人さまさまですが、たまに不愉快なときがある。やさしく、笑顔で対応すれば市役所をもっと身近かに感じることができると思う。
- ▲ 担当課の対応は大変よかったが、正面玄関の受付はこちらからあいさつしたのに表情も変えなかった。受付は「顔」です。良い印象になるよう努力してもらいたい。
- ▲ 県外から引越して来たが、今までの役所の中で新庄がいちばん対応が悪い。
- ▲ 最低限の電話マナーを守って対応いただきたい。誰に・どこから・何のためといったことが徹底されていない。
- ▲ 電話を受け取るとき、明るいはっきりとした声で「〇〇課の〇〇です。」と自分の名前を言うようにしてください。
- ▲ Tシャツと綿パンの格好の職員がいた。市役所は仕事場であり、ましてやお客さん相手、もう少し

身なりをしつかりして欲しい。

- ▲ 5分前から手続きして待っているのに、正午になり、電気を消して食事に向かう他の職員がいるのはおかしい。
- ▲ 職員の説明、対応に親切さを感じられない。高齢者にはインターネットでの説明ではわからない。
- ▲ 区長の「〇〇」というと急に言葉が柔らかくなるのが不快。特に課長の態度が変わる。
- ▲ 全体的には問題を感じないが、課によって説明・態度に不満を感じる場所がある。
- ▲ 一生懸命やっているのはわかるが、民間に比べるとまだ足りない。
- ▲ ネームプレートが小さすぎる。大きくしフルネームで市民に接することが重要。

一方、以前より良くなったと評価するご意見も多数ありました

- 従来に比べ職員の窓口、電話の対応はいいねいになった。今後一層市民サービスの向上に努めていただきたい。
- 職員の対応はここ二、三年大変良くなってきている。ただし中には悪いものもある。人格的なものか。
- さわやかな笑顔で対応いただき快く楽しむことができた。
- 人間ドックのことで市役所に来たが、とても親切、いいねいで、わかりやすく教えてくれた。最後に「何かありましたらいつでもどうぞ」と言ってくれた。最後まで気持ちよかった。

アンケート調査自体について

- ▲ このアンケートが一過性のものでないことを願う。市民(客)へのサービスは市職員の本来のはずであり、「見られているから」「文句つけられるから」ちゃんとするのでは困る。
- ▲ 全職員についてのアンケートだが、良い職員と劣る職員、その中間があるので、採点するのは困難。対象職員の課名と氏名も記入できるようにすべきである。
- このようなアンケートを取ることも市役所が市民に近づいていることだと思ふ。良いまちにすため、互いに頑張りたい。

運動期間は終わりましたが、皆さまの採点とご意見を生かし、常に向上に努めます。

※今回、広報には抜粋して掲載しましたが、全意見を市のホームページに掲載していきますのでご覧ください。

第40回 新庄市芸術祭 平成16年9月1日(水)～12月27日(月)

～ はぐくむ文化 あたらしい明日 わたしたちの新庄 ～

9月 September

第80回白土会展 9月20日(月)～26日(日)/市民プラザ
 新庄親子劇場 9月20日(月)/市民プラザ
 俳句色紙短冊と真多呂人形展
 9月30日(木)～10月3日(日)/市民プラザ

10月 October

燦さん展「濱崎道子ふるさとを想う」書展(特別参加)
 10月2日(土)～7日(木)/ゆめりあ
 新庄盆栽愛好会盆栽展 10月14日(木)～17日(日)/ゆめりあ
 新庄華道連盟いけばな展
 10月16日(土)～17日(日)/市民プラザ
 みちのく民話まつりPart1(秋語り)
 10月16日(土)/旧矢作家住宅・民話茶屋
 第19回芙蓉流踊りのつどい 10月17日(日)/市民文化会館
 観宝合同謡曲大会 10月17日(日)/市民プラザ
 第12回和紙ちぎり絵展 10月23日(土)～26日(火)/市民プラザ
 日本舞踊千川会新庄公演 10月24日(日)/市民文化会館
 第26回新庄地区詩吟祭創立30周年記念大会
 10月24日(日)/市民プラザ

新庄菊花会展示 10月29日(金)～11月6日(土)/ゆめりあ
 新庄民舞リボンの会発表会 10月31日(日)/市民文化会館
 新庄三曲協会 10月31日(日)/市民プラザ

11月 November

市民音楽祭 11月3日(水)/市民文化会館
 第60回新庄親と子のよい映画を見る会「ウィニングパス」
 11月6日(土)/市民プラザ
 新庄書道連盟書道展 11月6日(土)～9日(火)/市民プラザ
 新庄吹奏楽団第21回定期演奏会
 11月7日(日)/市民文化会館
 第54回新庄美協公募展 11月13日(土)～18日(木)/市民プラザ
 新庄演劇研究会 11月13日(土)/市民文化会館
 第39回新庄写真公募展 11月20日(土)～25日(木)/市民プラザ
 東北幻野第21回演劇公演 11月21日(日)/市民文化会館
 佐藤洋子バレエ教室発表会 11月28日(日)/市民文化会館
 第14回新庄民踊紫陽花会民舞まつり
 11月28日(日)/市民プラザ

12月 December

洋舞合同公演 12月12日(日)/市民文化会館

◎詳しくは、市民文化会館へ。☎ファクス22-7029

地域づくり

平成16年度 コミュニティ助成事業

～宝くじの助成金で整備しました～

この事業は、財団法人自治総合センターが宝くじの普及広報事業費を財源として、地域のコミュニティ(地域社会)活動に助成を行うものです。新庄市では、16年度、赤坂町内会と石川町成年会が助成を受けて事業を実施しました。



【赤坂町内会】

- 助成対象 公民館備品整備 (DVDカラオケ・テレビ一式、卓球台一式)
- 助成額 100万円



【石川町成年会】

- 助成対象 お祭り用品の整備 (神輿/大人用・子ども用)
- 助成額 140万円

※助成事業を実施したい自治会・町内会などのコミュニティ組織は、市にご相談ください。

◎詳しくは、企画調整課企画政策室へ。☎内線242

健康メモ

9月は「がん制圧月間」です

厚生労働省の平成15年の人口動態統計年計概数によると、がん(新生物)による死亡者は、全国で約31万人、全死亡者の30.5%を占めます。山形県における人口10万人対統計では、部位別死亡率が、胃がん55.8人(全国2位)、大腸がん40.4人(同3位)、肺がん55.3人(同4位)、それらの合計が301.3人(同4位)と、がんによる死亡率が高い状況となっています。

がんの発生には、生活習慣が関わっており、その中でも食生活と喫煙が大きく関係します。食生活では、塩分や脂肪の取りすぎを避けること。緑黄色野菜や食物繊維を積極的に取ることが大切です。喫煙は、肺がんだけでなく多くのがんの発生に影響します。がん検診は、住民検診、職場や個人で受けるものなどいろいろありますので、ぜひ受けましょう。また、受診後に要精検の案内通知が届いたときは、必ず精密検査を受けましょう。がんを直すには、早期発見・早期治療が何より大切です。自分の健康は自分で守りましょう。

◎詳しくは、健康課健康推進室へ。☎内線513～516

御家老の江戸だより

お祭り雑感

◆新庄藩江戸家老 安彦 善博さん

(洗足学園音楽大学・大学院 教授)

この原稿が皆さんの目にとまるころには、「新庄まつり」も終わって、町の熱気も収まっていることでしょう。

今、ここ横浜の色々な場所でもお祭りが行われています。私が住んでいる地域はすべてが新しい住民なので、新しくお祭りを始め、多くの住民が参加して盆踊りが行われています。新しいお祭りなので、食べ物・飲み物の店もすべて住民だけで行っています。



▲地域のまつりに向け練習

私はいえ、地域の若い人たちが結成している、吹奏楽団(セミプロからアマチュアまで)のやぐらでの演奏のための練習を、中学校の体育館で行いました。近隣の方たちのことも考えて、締め切った練習するため

した。暗くなつてからの提灯の下での、吹奏楽の演奏は非常に面白く、集まった方たちにも楽しんでいただきました。

さて「新庄まつり」の圧巻は山車と「お囃子」です。確か「お囃子」は「宿渡」をはじめ四曲あったと思いますが、祭りの途中から始まったとしても、なんと長い間伝わってきたメロディでしょう。「宿渡」のメロディを思い出すと「チェレンコヤツサー」と、歌いだしたくなってきました。長い間の伝統がまさしく受け継がれているのです。ただ一般的に、伝統も少しづつですが変わってきているように思います。音楽全般に言えることですが、聴く人たちに受けるメロディに変えて演奏するようになってきています。新庄では今までの伝統の「お囃子」を、ぜひ守ってほしいと思っています。

ともあれ、「新庄まつり」の素晴らしさは見えてみないと分かりません。日本中から多くの人が新庄に来て、あの勇壮で繊細な山車を見て、伝統ある「お囃子」を聴いてほしい願っています。

いきいき 新庄人

大事なのは「人と人のつながり」

田中 玲さん(川西町)

「新庄を楽しく」をキーワードに活動しています」と語る田中さんは、北本町商店街の空き店舗を利用して放送しているミニFMラジオ局FM FLOWER(フラワー)の会長です。さまざまな業種・世代のスタッフ32人が「楽しい! 面白い!」と思う情報をラジオで、電波の届かない人には『ミニコミ FLOWER』で、そしてインターネットを通じて『Web FLOWER』で世界に情報発信しています。

「東京からUターン就職して、“新庄は娯楽が少ないなあ”と思っていたころ、友人から一緒にラジオで格闘技番組をやってみないかと誘われたことがきっかけでした。参加してからは、自分が“面白い”と思うことをラジオ番組にしたり、Webサイトの管理やビデオ編集などをやってきました。

FM FLOWERは営利を目的にしている団体ではなく、ミニFMを通して自分たちが楽しめることをやってみたくて集まったメンバーの会費などで運営しています。会長として心がけていることは、みんなで楽しくやっていくため、スタッフの個性や得意なことを自由に表現してもらいたいと思っています。また、会をスムーズに継続して運営でき

るよう、システムづくりや規律の維持も大切です。ただ、せっかく楽しいことをしているのに無理しては長続きしないと思っているので、その点には気をつけています。

わたしがいちばん大切にしたいと思っているのは、人、仲間、友人です。FM FLOWERの活動でも、人のつながりは大きな魅力の一つです。自分自身が楽しい、面白いとやっていく中で、いろいろな人と出会い、仲間の輪が広がり、そこからまた新たな出会いが生まれます。わたしにとってFM FLOWERは人と人の輪を広げることができる大事な場です。

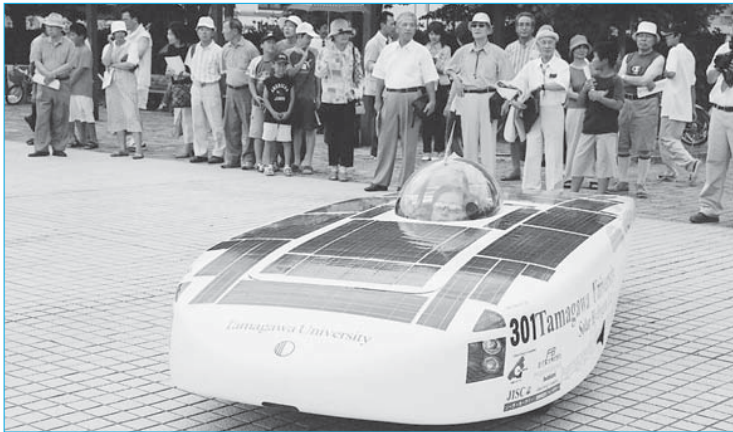
先月、FM FLOWERは送信アンテナを中継することで受信範囲が拡がりました。より充実した番組を作るためにも、たくさんの方が参加してくれたらいいなと思います。FM FLOWERは“聴くラジオ”より“出るラジオ”です。また、将来、テレビの地上波がデジタル化される際、自分たちの番組を提供できたらいいなとも思っています」と、田中さんは、真っすぐなまなざしで話してくれました。



▲仲間と地域の情報を発信

聞 録

季節の話題・市政の動き・催しなどを紹介するページです



▲玉川大学との協定締結を記念しハイブリッド・ソーラーカーとソーラーカーがデモ走行(8月4日/アビエス)



▲夏の木陰で「こどもなつのつどい」(8月6日/市立図書館)



▲ミニ一般公開・真夏に降る雪(8月10日/長岡雪氷防災研究所新庄支所)



▲友好自治体共同事業協議会総会(8月6日/新庄ニューグランドホテル)



▲多くの市民が参加した市民盆踊り大会(8月10日/ふるさと歴史センター隣広場)



▲佐藤四郎太氏による民具の絵の公開制作(8月14日/ふるさと歴史センター)

“夢の車”疾走

太陽電池と燃料電池を組み合わせた世界初となるハイブリッド・ソーラーカーがデモ走行しました。これは、開発した玉川大学と市がバイオマス研究に関する協定を締結した記念として開催されたもの。オーストラリア大陸4000キロ横断を成し遂げたチーム総監督・小原宏之教授が記念講演した後、ハイブリッド・ソーラーカーはアビエスを静かに発進。太陽エネルギーと水素で走る夢の車に、多くの市民の注目が集まりました。

こどもなつのつどい

子どもたちに豊かで楽しいひと時を過ごしてほしいと、大きなかやの木がある市立図書館の中庭で「こどもなつのつどい」を開催しました。かやのみ会やガールスカウトによる大型紙芝居、図書館職員のパネルシアターに子どもたちの視線は釘づけ。人気の場面になると笑い声や歓声が上がりました。その後、身近な材料を利用した竹とんぼ工作を楽しみました。

友好自治体協議会

新庄市・奈良県新庄町・岡山県新庄村友好自治体共同事業協議会総会が開かれました。友好自治体盟約は、同じ名を縁に昭和61年に結ばれ、新庄剛志選手の大リーグ応援ツアーや物産展などの共同事業を行ってきました。今年10月、新庄町が合併して葛城市になった後も交流事業を続けていくことを確認しました。

郷土遺産「民具の世界」

東北最大級の民具収蔵量を誇るふるさと歴史センターで企画展「素晴らしき郷土遺産=民具の世界その1」が開催されています。8月には郷土画家・佐藤四郎太氏による民具の絵の公開制作も行われ、2万点を超える民具で会場はレトロな雰囲気にも包まれています。

17年3月までの開催。



成人の誓い

新成人の新たな出発を祝う成人式を開催。今年の参加対象は、市内に住所をおく人と市内の中学校を卒業した新成人379人。代表の高橋佳史さんから「真の意味での社会貢献をしたい」と誓いの言葉が述べられ、参加者たちは、友人たちとの再会を喜び合いながら決意を新たにしました。

やまがた環境フォーラム

県内の環境をめぐる現状と課題、将来展望を考える「やまがた環境フォーラム in 新庄」が開催され、地球にやさしいさまざまな取り組みが紹介されました。これは、NHK山形放送局・県・市などの主催によるもの。また、新庄まつり期間中、ゆめりあでエコ情報満載の展示も行われました。

栄光をたたえて

- 山形県中学校総合体育大会
【相撲】団体1部③明倫中2部①明倫中／個人柏戸杯①加藤慧(八向中)1部①加藤慧(八向中)3部③今田卓耶(明倫中)
- 東北中学校相撲大会
個人3年の部②加藤慧(八向中)
- 山形県新相撲選手権大会
個人60キ口級①蒲倉千佳(明倫中)
- 東北中学生空手道選手権大会
個人組手①土田ひかり(明倫中)
- 山形県少年健全育成柔道大会
小学5年生女子40キ口以下の部①伊藤美由希(日新小)
- 県少年の主張大会最上地区大会
最優秀賞 芳賀彩香(八向中)
- 愛鳥週間ポスターコンクール
山形県知事賞高山慎平(沼田小) 奨励賞高橋あゆか(昭和小) 玉川樹生(日新小) 星川菜々美(山屋小) 佳作押切恵(山屋小) 岸千寛(日新小)



▲久しぶりの再会を喜び合った成人式(8月14日／市民プラザ)



▲NHK総合テレビで県内生中継された「やまがた環境フォーラム in 新庄」(8月24日／ゆめりあ)



▲最上川こいこい灯籠まつり(8月19日～23日／本合海)



▲平和都市宣言旗(2004年版)掲揚式(8月15日／市役所)



▲新庄リトルラビッツがミニバス東北大会出場を市長に報告(8月13日／市役所)



▲新庄駅にまつりハッピー登場(8月13日～26日／駅構内)

ら・せ

イベントや行政案内など
まちの情報を紹介するページです

結核予防週間 9月24日～30日

◎厚生労働省

募集

陣峰森づくり体験

▼とき 10月3日(日)午前9時～正午(新庄駅東口集合・バスで移動) ▼ところ 陣峰市民の森 ▼内容 枝打ち・チップ敷き体験、森林トレッキング、木工クラフト体験など

▼参加費 無料

▼持ち物 水筒、雨具など

▼申し込み 9月27日(月)まで

☎農林課農林振興室

☎内線262

最上オープンカレッジ 秋期講座受講生

早稲田大学オープンカレッジ講座を衛星通信により提供

新庄の「協働」について考える

～みなさんのご意見をお聴かせください～

- とき 9月28日(火) 午後1時30分～3時30分
- ところ 市民プラザ 第5・6研修室
- 内容 講演(講師/東北公益文科大学 学長・小松隆二氏)、「新庄市協働推進のための指針」公聴会
- 申し込み 9月24日(金)まで
- 入場無料です。詳しくは、企画調整課 市民協働広報室へ。 ☎内線245・246

しています。

▼とき 9月～12月 ▼講座能の世界、決算書の読み方、マーケティングの基本、古墳文化、エジプト考古学 ▼受講料 1,800円～6,000円

☎最上総合支庁企画振興課

☎28-1512

紅葉観賞とクリ拾いハイキング

▼とき 10月2日(土)午前8時30分東山スポーツハウス集合

▼コース 市民の森1周

▼参加費 500円

▼持ち物 昼食、雨具など

▼申し込み 10月1日(金)まで

☎陣ヶ峰に登る会・菅原

☎23-1611

親子でクッキング

▼とき 10月2日(土)午前10時

▼内容 カラオケ、料理教室、ボーリングなど

▼参加費 200円

☎新庄ベンチャークラブ・押切

☎75-2039

ふれあいサロンふれんど

心に病を持つ人が集まり楽しく過ごすいい場です。

▼対象 最上地区在住で心に病があり症状が安定し、家族・主治医の賛同がある人

▼とき 9月25日(土)から毎月第4土曜日午前10時～午後3時

▼ところ 老人福祉センター

▼内容 カラオケ、料理教室、ボーリングなど

▼参加費 200円

10月1日から二輪車のリサイクルが始まります

10月1日以降、新たに購入する二輪車(バイク)にはリサイクル料金が含まれています。Rマークを確認してください。これまでの二輪車を廃棄する場合もリサイクル料金が必要です。

対象とならない車種もありますので、最寄りの二輪車取扱店または指定取引窓口(新庄故紙センター)へ相談してください。

◎詳しくは、環境課環境保全室へ。

☎内線431・432

市営住宅 入居者募集

団地名	間取り(畳)	家賃
小椋室団地(1戸)	6・6	20,100～33,400円

◎資格 次のすべてに該当する人

- ①現在住宅に困っている人、②同居親族がいる人(婚約者可、50歳以上単身可)、③収入基準に合う人、④税金の未納がない人

◎申し込み 9月17日(金)～28日(火)

◎受付時間 午後7時まで

◎優先入居により抽選がなくなる場合があります。詳しくは、都市開発課まちづくり推進室へ。

☎内線533・534

※ボランティア協力員募集中
☎新庄市社会福祉協議会
☎22-5797

遊学の森(金山町)からきこりになろう

▼とき 9月26日(日)午前10時～午後3時

▼参加費 600円

▼内容 きこりの木の実採取

▼とき 10月9日(土)午前10時～午後3時

▼参加費 1,000円

※いずれも定員30人で昼食つき、申し込みは開催日の1週間前まで

☎遊学の森
☎64-3305

排水設備工事
責任技術者試験

▼とき 11月21日(日)午後1時～3時 ▼ところ 新庄神室産業高校 ▼申し込み 9月21日

☎新庄市社会福祉協議会
☎22-5797

心の健康づくり講演会

▼とき 10月8日(金)午後1時30分～3時30分

☎生涯スポーツ課
☎22-06081

体育施設定期使用の調整

▼申し込み 9月30日(木)まで

▼使用施設ごとの調整会議

体育館 10月6日(水)、武道館 10月7日(木)、市民球場 10月8日(金)の午後6時から体育館役員室で

☎生涯スポーツ課
☎22-06081

お知らせ

☎10月15日(火)～10月15日(金) ※希望者を対象に受験講習会を10月23日(土)に開催します。
☎下水道課業務普及室
☎23-5100



「公証週間」無料公証相談所開設

○期間 10月1日～7日
◎山形公証人役場 ☎023-625-1693

9月のお・知

相談

いきいき健康相談

- とき 毎週金曜日午前9時～午後4時
 - ところ 保健センター
 - 内容 保健師による健康相談、血圧測定、体脂肪の測定など
- ◎相談無料です。詳しくは、健康課健康推進室へ。 ☎内線513～516

出張無料税務相談

- とき 9月17日(金)午前10時～午後3時
 - ところ 市役所西庁舎市民相談室
 - 内容 所得税、消費税、相続税、資産の譲渡などの国税について
 - 対応 仙台国税局税務相談室酒田分室
- ◎詳しくは、税務課課税室へ。 ☎内線143

「法の日記念」無料法律相談

- とき 10月4日(月)午前10時～午後3時
 - ところ 市民文化会館
 - 対応 最北弁護士会
- ※直接会場へどうぞ
◎詳しくは、市民課市民相談室へ。 ☎内線125

チャレンジ就職面接会

- 対象 学生を除く求職者
 - とき 9月28日(火)午後1時30分～4時
 - ところ 新庄玉姫殿
- ◎詳しくは、ハローワーク新庄へ。 ☎22-8609

障害者なんでも相談室

- 対象 心や身体に障害を持つ人やその家族
 - とき 毎週月～金曜日と第3土曜日午前9時～午後5時(弁護士相談は第3土曜日・要予約)
 - 相談方法 電話、手紙、ファクスで
- ◎相談無料です。詳しくは、障害者社会参加推進センターへ。 ☎023-687-5333

被害者支援員制度

- 犯罪被害者の精神的負担を軽減するため、相談に応じ、支援を行う機関を紹介しています。
- とき 平日午前9時～午後4時30分
 - ホットライン ☎023-622-5122
- ◎詳しくは、山形地方検察庁企画調査課へ。 ☎023-622-9924

▼とき 講演会／9月18日(土)午後2時～4時、講義／9月25日(土)・10月2日(土)午後1時

県内4大学合同公開講座 大学コンソーシアムやまがた

▼とき 9月29日(水)午前10時30分(15分前に集合)
▼ところ 市役所第一会議室
▼持ち物 印鑑・免許証など
※当日中止の場合もあります。
☎税務課課税室 ☎内線147

▼取扱期間 17年3月31日まで
☎住宅金融公庫東北支店
☎022-2227-5003

住宅金融公庫 住宅ローン返済相談

☎023-628-4844

☎山形労働局雇用均等室
☎023-624-8228

母性健康管理指導事項連絡 カードを利用しましょう

☎023-641-5176

電話加入権の公表

▼ところ 最上総合支庁講堂
▼内容 「みんなで考える心の健康づくり」講師／秋田大学医学部教授・本橋豊氏
▼申し込み 9月27日(月)まで
☎最上保健所地域保健予防課
☎22-5634

☎023-628-4844

国有地の売却

▼物件 宅地／新庄市大字松本字向野550-1外1筆(1781.13㎡)
▼入札 10月中旬予定
※詳細は9月下旬ホームページなどで公表します。
☎山形財務事務所管財課
☎023-641-5176

児童手当の支給対象年齢が 変更になりました

児童手当法の改正により、児童手当の支給対象年齢が、義務教育就学前までから小学3学年修了前までに延長されました。
【就学児童の申請手続き】
○小学1年生の保護者 該当者には引き続き支給しますので手続きは不要です
○小学2・3年生の保護者 請求の申請が必要
※所得要件は変更ありません。9月30日まで申請された場合は、4月分までさかのぼって支給します。
◎詳しくは、福祉事務所児童支援室へ。 ☎内線547

国民年金を 追納しましょう

保険料の免除や学生納付特例を受けた期間は年金額が減額されますが、10年以内であればさかのぼって納めることができます。ゆとりができれば追納しましょう。(原則的に国民年金は納付・免除期間合わせて25年以上なければ支給されません)
◎詳しくは新庄社会保険事務所Ⅱ22-2050、市民課国民年金担当 ☎内線134へ。

有料道路身体障害者等 割引の更新手続き

制度改正により従来の「割引証」は利用できなくなりました。新たな登録手

続きが必要です。

- 持ち物 障害者手帳、登録する自動車の車検証、運転免許証
- ◎詳しくは、福祉事務所高齢障害支援室へ。 ☎内線546



「豊かな心をはぐくむ」

——新しい時代への人づくり——

新庄市青少年育成市民会議では、「地域の子どもは地域で育てる」をテーマに町内活動などに小・中学生を積極的に参画させる「一町内一活動」を進めています。今回から三回シリーズで、町内会や保護者たちが学校では得ることのできない子どもたちの体験活動に取り組んでいる様子を紹介します。

めだかの楽校

宮内新町には、町内有志による「大黒柱の会」という会があります。その会の中で、子どもたちを取り巻く遊びの環境が様変わりしているのではないかと、心配の声が上がってきたことがきっかけで始まったのが「めだかの楽校」です。

子どもたちに集団遊びや豊かな自然体験をさせたいという願いから、「大黒柱の会」が一肌脱（ごうじ）がないかということになったのです。ちょうど学校が土・日休みになるうとしていたときでした。以来、毎年五〜六回の活動を重ねてきています。夏には「東山焼き体験」、秋には「鮎（とら）の投網（とみ）・里芋の収穫」、冬には「手作りクラフト・スキー」など四季折々の活動を楽しんでいく予定です。

最近では、体験農園での活動や川遊びなどを行っています。活動

を繰り返すうちに、参加者も増えてきています。「続けることが大事」と決め、頑張っています。

（宮内新町・大黒柱の会）

もみの木スクール

「もみの木スクール」では、新庄小学校の保護者たちが、学校週五日制対応事業として、土曜日の午前中を利用し、子どもたちと一緒に工作やお菓子作りなどを行っています。

最初は何をやってよいか分からず話し合いを重ね、第一回をスタートさせるまではかなり時間がかかりました。また、今まではイベントに参加する側でしたが、今回は一から企画を作り上げていく難しさを痛感しました。当日を迎えるまで、子どもたちは集まってくれるのか、満足してくれるのかという不安もありましたが、参加して

くれた子どもたちのキラキラした目の輝きを見て手ごたえを感じることができました。



もみの木スクール



めだかの楽校

子どもたちは、皆すばらしい感性を持っていることを再認識させられました。今年度も五回実施する予定です。「もみの木スクール」を通じて地域の子どもたちにさまざまな体験をしてもらえることを願っています。

（新庄小・もみの木スクール）

※今年度から、新庄市内全学区で小学生を対象に土曜体験スクールの企画・運営を保護者の方から手伝っていただき実施する予定です。また、各町内活動について小・中学生が参画して特色ある活動をしている町内がありましたらご連絡ください。（教育委員会 生涯学習課）

地名伝説

二枚橋

——古い街道筋の集落——

佐竹氏が秋田に入る（江戸時代）以前の秋田方面への街道は、鳥越から八幡神社下、金沢山の麓、東山公園の辺を通り、梅ヶ崎・小泉を経て、萩野石動神社前から二枚橋に抜け、そこから金山町の片貝・安沢・由茂沢・有屋を通って秋田県の役内へ出たとされている。

また、清水大蔵時代（一四七六〜一六二二）、二枚橋は、この清水氏領分の北のはずれに当たり、この清水大蔵の分限帳（※1）に、「六百刈萩野無役二枚橋新十郎」とあり、「ここに口留（くちどめ）※2の役人を置いたことがうかがわれる。これらのことから、二枚橋は江戸時代以前の古い時代からあった村と推察される。

泉田川（泉川）は、時代によってその流れを大きく変えているが、かつて仁田山の上の方から二枚橋を通り、赤坂にかかり、神ヶ崎山の下から鍋倉に出て平岡川（現在の金山川）に合流した時代があったと思われる、二枚橋の「橋」は、もしかしたらこの川に係っているものかもしれない。

～図書館はオアシス～

BOOKS NOW!

今月のおすすめ

『証言台の母 小説 医療過誤裁判』

佐木隆三 著

この不実だけはゆるせない! 愛娘を奪われた医師が大病院相手におこした医療過誤訴訟。全面勝訴を勝ち取るまでの苦難の10年間の実録小説。



● 今月のテーマ展示 ●

『グルメ』

「食通」といわれる作家のエッセイ。旅先のおいしいものの紹介。池波正太郎作品の「食」の世界。「ハリーポッター」「大草原の小さな家」など、物語にでてくる料理のレシピだけを集めた楽しい本もあります。おいしい一冊を探してみたいかがでしょうか。

新着図書

- ◆ 夜のピクニック …………… 恩田 陸
- ◆ グラスホッパー …………… 伊坂幸太郎
- ◆ 萬田久子の感じる着物 …… 萬田 久子
- ◆ 半夏生(東京湾臨海署安積班) 今野 敏
- ◆ 2004年版ベストエッセイ集 …… 文藝春秋 刊
- ◆ 火天の城 …………… 山本 兼一
- ◆ その名にちなんで …………… ジュンパ・ラヒリ
- ◆ 不祥事 …………… 池井戸 潤
- ◆ 鳥居の赤兵衛(宝引の辰捕者帳) 泡坂 妻夫
- ◆ 火のみち(上・下) …………… 乃南 アサ
- ◆ 電子レンジで愛情離乳食 …… 村上祥子・高野 優
- ◆ 元日銀マンが教える預金封鎖 …… 本吉 正雄
- ◆ ケース・オフィサー(上・下) …… 麻生 幾
- ◆ 群ようこの良品カタログ …… 群 ようこ
- ◆ スーパーヒーマンー人体に潜む驚異のパワー
ロバート・ウィンストン ロリ・オリベンシュタイン
- ◆ 子ども白書2004「安心・安全」と希望のゆくえ
…………… 日本子どもを守る会
- ◆ 小生物語 …………… 乙一
- ◆ 卵のふわふわ 一八丁堀喰い物草子・
江戸前でもなしー …………… 宇江佐真理
- ◆ ザビエルとその弟子 …………… 加賀 乙彦
- ◆ 約束 …………… 石田 衣良
- ◆ High and Dry(はつ恋) …… よしもとばなな
- ◆ 宮本常一の写真に読む失われた昭和
…………… 佐野 真一
- ◆ ヴェロニカ・ゲリン …… エミリー・オライリ
- ◆ 激震 …………… ジェイムズ・ダレッサンドロ
- ◆ トリビアの泉(7) …… フジテレビトリビア普及委員会
- ◆ ホテリアー(上・下) …… カン・ウンギョン
- ◆ なめないでね、わたしのこと …… 内館 牧子
- ◆ 犯人に告ぐ …………… 栗井 脩介

幼児期のしつけはとても大切

～第28回「新庄市幼児教育懇談会」研修会から～

市は、就学前から小学校低学年までの幼児期の望ましい教育を探るため幼稚園・保育所・小学校の教員と保護者による「幼児教育懇談会」を昭和五十三年から毎年開催しています。今年も、総会後「子どもの自律へ向けて」をテーマに、情報交換とパネルディスカッションを行いました。

最近、小学校に入学しても落ち着いて授業を受けることができない子どもが増えてきています。これは、子どもが幼児期に受けてきた家庭教育のしつけに大いに関係があり、学力を身につける基盤となるものです。

幼児期は人格が形成されると

でも大事な時期です。幼児期のしつけについて見直す必要があるとの指摘もあります。

現代は価値観の多様化により、親のしつけに対する考え方もさまざまですが、子どもにとって本当に望ましい家庭教育のあり方を教育関係者と保護者が一体となり考え、子どもたちを心健やかに育てていかなければなりません。

そのためにも、研修会では、研修会へ出された意見を紹介します。

【偏食を克服する】

- 家族で団らんのひとときを持ち、楽しい食事を心がける
- 好物だけでなく嫌いな物も

かずに入れる

○ 子どもと一緒に調理したり、自宅で野菜を栽培したりして、食べ物に愛着のわく工夫をする

【落ち着いて話を聞く】

○ 日々忙しくても子どもの話をしっかりと聞く

○ 子どもが興味あることに集中して取り組む時間を大切に

【友だちとの関わり方】

- 暴力でなく言葉で問題を解決するルールを教える
- 植物や動物に対して愛情をもって接することを教える
- 周りの人たちの「やさしさ」の中で子どもを育む

(教育委員会)

もつとも、かつての二枚橋村は、

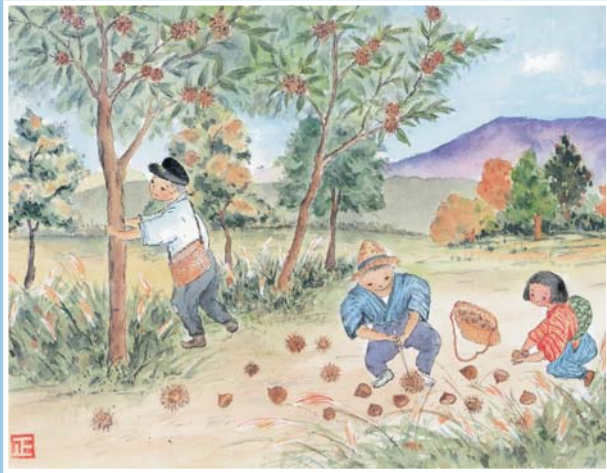
現在の集落よりもつ少し東北寄りの御所橋(宇名)にあったという。宮内にある土所明神は、元はこの御所橋にあったもので、飛田辺にあった海藤楯の海藤帯刀(たてわき)が、信奉のあまり、宮内に遷したことは前に触れた。その後、昔の二枚橋村は潰れたとい、一説に、野火に焼かれて方々に散ったともいうが、現在の集落は、その後新たに立ったものだという。(市史編さん室)

(※1)分限帳：家臣の姓名と知行高を記した帳

(※2)口留：他領と接する要地に置く小規模な関所

かつろく～思い出の四季～

栗ひろい



く。白い皮の中から、つやつやした栗があらわれる。はじきとって「はげご」に入れる。

時間を忘れ、つきつきといがをむく。やがて昼飯だ。丸座になつて、みんな風呂敷を解く。山で食べる時のうまさは格別だ。

また仕事にかかる。陽も西に傾く頃、呼びあつて帰ることにする。はげごから、栗をひとつ取り出す。厚い皮をかじって破り、渋皮を歯でむいて吐き出す。

白い栗を、カリカリとかじる。甘い。ほんとにうまい。二つ三つと新栗を味わいながら、仲間と収穫を喜ぶので家路だ。

絵 三條正美、文 笹喜四郎(昭和六十一年新庄市発行)

日曜だ。仲間といつしよに、かねて下見していた栗林に出かける。腰には、にぎりめしの風呂敷包。

いとも熟れている。顔を真赤にして、木をゆする。木の枝を投げつける。木に登って叩く。熟れた栗が、バラバラ落ちてくる。

がさつと、いがかのまま落ちたのは片足でおさえ、棒切でむ



8月号の正解は「②昭和59年」でした。広報8月号を読んだ感想から紹介します。「最近、街のあちこちで新庄まつりの雰囲気を感じるようになってきました。新庄市に住んで3年目になりますが、まつりの準備の大変さ、そして意気込みを改めて痛感しています。夏を締めくくる新庄まつり。今年はじっくり堪能したいと思います」

9月号では、5人に図書券をプレゼントします。

かむてん クイズ



さて問題です。戦時中に中断された新庄まつりが復活したのはいつでしょう。①昭和21年、②昭和24年、③昭和30年／はがき・ファクス・eメールに「①答え、②住所、③氏名、④年齢、⑤電話番号、⑥広報紙を読んだ感想など」を書いて、〒996-8501新庄市企画調整課市民協働広報室あて、9月28日まで応募してください。ファクス 22-0989 / eメール kikaku@city.shinjo.yamagata.jp

表紙の真実

夏、思いきり躍動!

～夏を彩る新庄まつり～



東北の夏祭りを締めくくる日本一の山車パレード・新庄まつり。絢爛豪華な山車と、勇壮にして哀愁ただようまつり囃子に、街中が興奮と喝采に包まれた。古く藩政時代に始まった新庄まつりは、来年、250年を迎える。

7

月末現在の新庄人

41,369人 (41,478人)

女	21,548人 (21,579人)
男	19,821人 (19,899人)
世帯数	13,498世帯 (13,362世帯)
7月の異動	
出生	30人 (43人)
死亡	35人 (28人)
転入	88人 (89人)
転出	89人 (77人)

※ () は1年前の住民基本台帳



再生紙100%と環境にやさしい大豆油インキを使用しています